為石小学校の合言葉 「ためし 最高！ ～ 地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども ～」

←HPを登録してください。

学校だより

# ためし

○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

令和6年5月15日号
文責 上久木田雄二

## 子どもの会話

たとえば、こんな子どもの会話があったとします。

A 今日の算数の時間の問題分かった？
B ぜ～んぜん。難しくて分からなかった。
C そうなの？ 私は簡単だったよ。
A そりゃあ、C は算数得意だし。まじめだから。
C そんなことないよ～。
B そうそう。よく手も挙げるしね。ところで、A。中休み遊べる？

みなさんは、この子どもたちの会話を聞いて、どんな感想を持ちますか。学校では良くある会話です。学校生活の時間の流れの中の、ほんの一コマであり、何気ない会話の積み重ねが、子どもたちのコミュニケーションになります。

この3人の子どもが帰宅後、家族から

「今日、学校で楽しいことあった？」

と訊かれたとします。

A 今日も B から誘われて遊んだよ!!楽しかった～。

B 今日ね 算数の問題が分からなくて困ってたけど、そのあと A が一緒に遊んでくれたから、すっきりしたよ。

C 今日、算数の問題がすらすら解けて楽しかったよ。先生からも褒められたし!!

家庭でも、こんな会話が繰り広げられることでしょう。これも、子どもたちの生活の一コマとなります。

では、帰宅後、次のように家族に尋ねられたら、子どもたちは果たしてなんと返答するのでしょう。

「今日、学校で嫌なことなかった？」

たとえば、こんな言葉が返ってくるかもしれません。

A 算数の時間が嫌だった。だって全然分からないのに C がすぐに「終わりました」って言うし。

B 私が算数で分からないのに、C から「簡単なのに」って言われた。

C 私のこと、無視された。B から仲間外しにされし。中休み、誘われなかったもん。

前半の「楽しいこと」に焦点化したとき、子どもたちは、「楽しい」と感じたことに思いを巡らします。

親としては、勉強や遊びを頑張っている子どもの姿に安どするのだと思います。

後半のように尋ねられると子どもたちは、学校生活を振り返り、「嫌なこと」にクローズアップしていきます。

特に、C の親としては、何と助言してよいのか思案を巡らすことになります。いじめ法の枠組みで考えれば、いじめられたと主張することも可能です。

まじめだと名指しされたことを否定したのにスルーされ、いきなり会話を妨げた上に遊びの話を展開し、A だけを誘う言葉かけをされたことに不安を感じるのは当然です。

A や B には、まじめという言葉が「疎外感」を与えるおそれがあることも知らず、仲間外しをする意図もありません。C も「算数は簡単」という思いが、まさか人を傷つけるなんて思いもしないのです。

未熟な子どものコミュニケーションを手助けするのは、大人の適切な受け止め方なのです。